

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和8年度第2回食育推進会議
開催日時		R8年 3月 27日(金) 午後2時00分から 午後3時30分まで
開催場所		市立図書館2階研修室①
委員名		(1) 出席委員 梅木 陽子 城野 加代子 山村 裕一郎 児島 由美 花田 砂恵子 田島 勝彦 中島 美香 林 チヨ (2) 欠席委員 山本 和也 田志 元子
所管課職員職氏名		こども家庭部 部長 中村 雅美 子育て世代包括支援課 課長 佐々木 こずえ 子育て世代包括支援課 保健指導係長 安部真理 子育て世代包括支援課 保健指導係 丸山 康子
会 議	議 題 (内 容)	(1) 食育に関する市民アンケート結果の報告 (2) 福津市食育推進計画について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	0 名
	資料の名称	
会議録の作成方針		<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録 記録内容の確認方法
その他の必要事項		

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 開会のことば

2. 会長あいさつ

3. 諮問

4. 議事

(1) 食育に関する市民アンケート結果の報告

(梅木会長)

それでは、議事に入ります。

議事 1、「食育に関する市民アンケート結果の報告」を事務局より説明をお願いします。

(事務局丸山)

資料 1 の令和 7 年度福津市食育に関するアンケート調査報告書をご覧ください。

【2 ページ】 2 の調査設計から説明します。アンケートは 18 歳から 75 歳の市民、幼児の保護者、小学 5 年生、中学 2 年生、高校 2 年生を対象に、それぞれ Google ホームを使用して、6 月から 7 月に実施しました。

【3 ページ】 3 の回収結果は、18 歳以上の市民の回収率は 22.5%でした。前回の令和 2 年度は紙ベースの記述式で実施し 49.2%の回収率でしたので、比較するとかなり低い回収率となりました。ですから、この回答結果が全てではないことを頭に置いて結果を見なければいけません。ただ、国で行われたアンケート結果も似たような結果が得られていると感じましたので、回収率は低いけれども、福津市の傾向が読み取れるのではないかと感じています。

当日配布資料（ページ数 102～107）は、梅木会長にアンケート結果を総括していただきました。これをもとにアンケートの結果を報告させていただきます。

1、食育について

【5 ページ】 食育について「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は 88.1%で、調査初回の平成 19 年度以降で最も高く、全国調査結果よりも高い結果でした。

【7 ページ】 食育に関心のある理由の上位 3 項目は初回調査から同じ結果で、「子どもの心身の健全な発達」「生活習慣病の増加」「食生活の乱れの問題」でした。第 2 次福津市食育推進計画策定時に比較して、「食料廃棄物の

問題」を回答した人の割合が高くなっていて、市民の環境への関心の高さが伺えました。

【8 ページ】食育の実践については、「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」と回答した人は 63.5%であり、女性のほうが、また、高年齢層で実践している割合が高いことは初回調査時から大きな変化は見られませんでした。

【10 ページ】食育の実践を「あまりしていない」「あまりできていない」理由としては、「食事や食生活への関心はあるが他のことで忙しいから」が最も回答が多いというところも初回調査以降変化がありません。ただ、今回調査の特徴として、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることのほうが重要だから」と回答した人が第2次計画策定時の 20.7%から 47.2%へと大幅に増加し、食品を初めとした物価上昇の影響を受けた結果と考えられます。一方、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」は、これまでの調査で最も低い結果でした。

【55 ページ】幼児の保護者が、食生活に関して家庭で子どもに教えていることについては、以前の調査と大きな変化はないですが、回答者割合は、ほとんどの項目で第2次計画策定時に比べて経年的に低下していました。

家庭以外での食育で力を入れてほしいこととして、「農業や漁業体験が、第2次計画策定時の 29.5%から 43.7%と回答者が大幅に増加しています。

【91 ページ】小・中学生のアンケート結果では、食育という言葉の「言葉も意味も知っていた」と回答した割合は、初回調査時の平成 19 年度以降で最も高い傾向でした。

以上のことから、食育への関心や認識は、全世代で高まっている一方で、食育の取組として食生活を取り巻く社会情勢や、子どもや家庭の状況に応じて内容を検討していくことが求められています。

2.食生活について

(1) 朝食の摂取

【12 ページ】朝食を「ほとんど食べない」割合は初回調査から増加傾向にあります。男性の 30 歳～59 歳で、女性の 50 歳～59 歳で第2次計画策定時から大幅に増加しています。朝食をとらない主な理由は「時間がない」が最も高いです。

【14 ページ】「以前から食べる習慣がない」「食欲がない」が次いで高いです。第2次計画策定時からの変化では、以前から食べる習慣がないが 18%から 23.9%と増加し、若い世代からの朝食摂取を習慣化することが重要であると考えられます。

【72 ページ】小・中学生では第2次計画策定時よりも「朝食を毎日食べる」児童生徒の割合が高くなり、また高校生は「ほとんど食べない」と答えた割合が低くなりました。

【89 ページ】就寝時間については、前回調査の令和2年度に比べて、小学生では午後10時以降、中学生では午後11時以降、高校生では午前0時以降に就寝する割合は低くなっています。

【90 ページ】起床時間では、午前7時以降に起床する割合は、小・中学生は変化なく、高校生は多くなり全体として睡眠時間が長くなった傾向でした。

【73 ページ】小学生は、朝食欠食の理由は「食欲がない」、中学生や高校生は「時間がない」が最も多く、引き続き朝食摂取とともに早寝、早起きの啓発を行っていく必要性があると思われます。

(2) 共食

【15 ページ】 【48 ページ】 【75 ページ】朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数は、1週間当たり10.1回で、前回調査の令和2年度よりも朝食、夕食ともにほぼ毎日共食する人の割合が低くなっていますが、第2次計画の目標である10回は上回っています。

また、幼児では13.1回、小学生では12.8回、中学生では11.7回、高校生では10.3回でした。前回調査に比べて、朝食、夕食ともに、ほぼ毎日家族と一緒に食べる子どもの割合は高くなりました。

共食は、食の楽しさを感じるだけでなく、食事のマナーや食生活習慣の基礎を学ぶ機会にもなり、そのため全世代を通して共食の機会を増やす取組が重要です。

(3) 食事時のあいさつ

【17 ページ】 【50 ページ】 【81 ページ】食事時のあいさつは、基本目標3「豊かな心を育む」に関する指標です。「必ずしている」「よくしている」と回答した割合は、幼児では82%でやや減少したものの、市民、小・中学生、高校生では初回調査以降で最も高い結果でした。

今後も、共食の機会を増やす取組とあわせて、自然の恩恵や食べ物が食卓に届くまでに関わる全ての人への感謝の気持ちを育むことが重要です。

(4) ゆっくりかんで食べる食習慣

【19 ページ】 【51 ページ】 【60 ページ】 【82 ページ】一般市民50.2%、幼児の保護者48.6%が「ゆっくりよくかんで食べている」「どちらかといえば、ゆっくりよくかんで食べている」との回答でした。全国調査と比べて高い結果でした。65歳以上は57.7%で第2次計画の目標値は下回っていました。幼児は70.9%、小学生は78.3%、中学生は63.7%、高校生は60.0%でした。

健やかで豊かな生活を送るには、口腔機能が十分に発達し、維持されることが重要です。そのため、食べ方も含めた口腔の健康や口腔機能の獲得、維持・向上と関連づけた食育の推進が重要となり、また、高齢期においては全身の健康管理とあわせて口腔機能の維持にも取り組んでいくことが必要となります。

(5) 主食・主菜・副菜のそろった食事習慣

【20 ページ】 【60 ページ】 【83 ページ】 「主食・主菜・副菜をそろえて食べることが1日2回以上ある」と「ほぼ毎日」と回答した人は、一般市民では36.5%、前回調査より10.9ポイント減少でしたが全国調査とは同程度でした。また、中学生57.5%、高校生41.2%で、どちらも前回調査より5ポイント以上減少しました。

【21 ページ】 【61 ページ】 野菜摂取については「野菜料理を毎日3皿以上食べている人」の割合は35%でした。

栄養バランスのとれた食事が重要性や手間をかけずに、実践できる方法を普及啓発していく必要があります。

(6) 生活習慣病の予防や改善のための食習慣

【22 ページ】 【61 ページ】 【78 ページ】 【80 ページ】 一般市民において、適正体重の維持や、減塩に心がけているかについて「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した人の割合は、前回調査から大きな変化は見られませんでした。

一方、今回の調査から高校生を対象に調査したところ「必ず、よく、時々気をつけている」と回答した人は68%でした。

また、小中学生については、家庭のスープやみそ汁の味と給食の味を比較した結果「家のほうが濃い」と回答した割合は、小学生25.3%、中学生で33.2%でした。

この結果から、全世代に対して生活習慣病の予防、改善に向けた意識の向上と実践につながる食育を推進していくことが必要です。

(7) 子どもの自炊力・食生活への自己評価

【78 ページ】 「自分だけで料理をつくるができる」と回答した割合は、小学生で85.5%、中学生で87.0%、高校生で89.7%となり、いずれも初回調査時以降で最も高い結果でした。

【84 ページ】 自身の食生活については「よいと思う」「少し問題があるがおおむねよいと思う」と回答した生徒は、中学生が93.7%、高校生は88.7%で、前回調査から大きな変化はないものの初回調査から良好な傾向が続いています。

【86 ページ】 食生活の問題としては、中学生、高校生ともに「食事のバランスが悪い」と回答した割合が最も高く、また食生活上の問題を相談する相手とし「親」と回答した生徒が最も多かったです。

これらの結果から、食育活動の推進を、保護者に対しても充実させていく必要があります。

(8) 食事が楽しいか

【16 ページ】 【59 ページ】 【77 ページ】 「食事が楽しい」と答えた市民の割合は前回調査と比べて大きな変化はなかったです。

一方で、小学生、中学生、高校生いずれも「楽しいと感じる」割合は、初回調査以降で最も高くなっていました。

福津市の全世代における食事の満足度は、全体的に良好に推移していると言えます。

3. 食文化継承、食育活動について

【37 ページ】 福津市産の農水産物を「毎日使用している」「よく使用している」と回答した一般市民の割合は 46.9%で、前回調査から大きな変化は見られませんでしたが、しかし、第2次計画策定時と比べて低く目標値も達成出来ていない状況です。

【38 ページ】 福津産の農作物や海産物の購入場所としては「福津市内の施設」が 68.2%、「市内の産直施設」が 62.9%と高く、地元での購入は一定程度定着していることがうかがえます。

地元産の農水産物の利用や生産者との交流は地域理解の促進や食文化の継承にもつながり重要な取組です。

【33 ページ】 【92 ページ】 「生産者との交流体験の経験がある人」は 28.5%で前回調査より増加しており、小学生 42.1%、中学生 33.8%、高校生 37.8%といずれの世代でも僅かに増加していました。

【39 ページ】 【93 ページ】 伝統料理や郷土料理については「知っている」と回答した割合が一般市民 82.8%、小学生 81.5%、中学生 82.8%、高校生 85.7%といずれも前回調査より増加していました。

【94 ページ】 「伝統料理や郷土料理を習ってみたい」または「時間があったら習ってみたい」と回答した割合は、小学生 74%、中学生 53.8%、高校生 60.4%と増加しており、関心の高まりが見られます。

食文化を次世代につなげるため、子どもだけでなく市民全体に対して、伝統料理、郷土料理の体験期間や情報発信を充実させることが求められています。

【28 ページ】 食育推進活動へ「参加してみたい」と回答した一般市民の割合は 42.4%で、初回調査以降で最も高くなっていました。

【29 ページ】参加してみたい内容としては「食生活の改善に関する項目」「郷土料理、伝統料理などの食文化継承活動」「生活習慣病予防などのための料理教室」が多く挙げられました。また「農漁業体験などに関する活動」への関心も初回調査以降で最も高くなっていました。

一方で、実際に食育イベント活動へ参加した人は、全対象者の 13.1%で少ないものの、初回調査以降徐々に増加しています。

【32 ページ】参加しなかった、出来なかった理由としては、「イベントや活動があることを知らなかった」との回答が最も多かったです。

4. その他

(1) フードバンク、こども食堂等の利用

【25 ページ】【63 ページ】「経済的な理由で食品が購入出来ないことがあった」と回答した人の割合は 12.8%で、男性よりも女性が 10 ポイント高く、特に 30 歳から 39 歳では 18.4%と高い割合でした。

【26 ページ】【64 ページ】【87 ページ】フードバンク及びこども食堂の利用については今回初めて聞いた項目になっています。フードバンクについては「利用したい」と回答した人が 43.3%である一方「わからない」と回答した人も 41%に上りました。

【27 ページ】

また、こども食堂のような、無料または低価格の食事の場については「利用したい」と回答した人が 31.2%で、特に 18 歳から 39 歳の若い世代で利用意向が高い傾向が見られました。しかし、こちらも「わからない」と回答した人が半数近くを占めました。

これらの結果より、フードバンクやこども食堂などについて、具体的な内容や利用方法のイメージが十分に浸透していない可能性が考えられます。

(2) 災害時の食料備蓄

【35 ページ】災害時の食料備蓄については「3 日以上備蓄している」と回答した人は 16.6%にとどまる一方、「ほとんど全く備蓄していない」と回答した人が、35.6%を占めていました。

このことから、災害時に備えた食料備蓄には課題があることが明らかとなり、災害を想定した食育の推進が求められています。

5. まとめ

今回の調査結果から食育への関心の高さに加え、食事の楽しみや共食頻度、食事時の挨拶、食文化への関心などの多くの項目で、良好な傾向が見られました。特に、小・中・高校生においては、自分で料理ができる力や食生活の自己評価が良好で、伝統料理や郷土料理の関心も高まっており、学校や家庭における食育の成果が見られました。

一方で、朝食の欠食、主食・主菜・副菜をそろえて食べる食事の実践、野菜摂取が不足傾向であることなどの課題も明らかとなりました。また、食育への関心はあるものの、食費の制約や時間的余裕の不足により食育の実践が難しいと感じている人が多く見られました。

さらに、食育活動への参加意欲はあるものの実際の参加率は高くなく、その理由として食育活動の情報が届いてないことが挙げられました。加えて、フードバンクやこども食堂については、わからないとの回答が多く、取組の理解が十分に進んでいない可能性があるほか、家庭での食料備蓄も進んでおらず、社会的課題への対応に課題がある可能性が示唆されています。

国においては現在、第5次食育推進基本計画を策定中であり「学校等での食や農に関する学びの充実」「健全な食生活の実践に向けた大人の食育の推進」「国民の食卓と生産現場の距離を縮める取組の拡大」が重点課題として検討されています。福津市においても、国の基本方針を参考としながら、市民の食の実態に即した食育を展開し、福津市の産物や人々をつなぐ取組を一層推進していきたいと思っています。

(梅木会長)

只今の説明に対してご質問はございませんか。

基準値は、平成27年の第2次食育推進計画が策定される前で、この10年間の間に令和2年度に中間評価をしましたが、中間の結果がちょうどコロナ禍での調査結果でした。

全体調査から動いているものと、基準値であるところからの増減と初回の19年度の結果からの推移というところで、コロナの影響なのか、基準値からの10年間の取組の評価として非常に見通しが難しい内容になっているかと思っています。

全体としては、初めに説明がありましたように、回収率がかなり下がっており、インターネットの調査に切り変えたというところで、これは福津市の調査だからということではなく、インターネットでアンケートをとると、かなり回収率は低くなるということは他の調査でもよくあります。少ない中でも回答していただいている方の結果という点で食育に関心が高い層の結果ではないかというところも結果を見る上で注意が必要です。

だからこそ、この中で、問題だと思えるような点については、一般市民の全員に展開すると、もっと状況が悪い可能性もあるというところで、次の計画の時には余計にそこは考慮しないとといけないと感じているところです。

委員の皆さんは、それぞれ活動の場で感じられることがあるかと思っています。今回、小・中・高校生は、学校を通してアンケートを依頼してありますので、かなり高い回収率でご協力いただいております。「食事が楽しい」「自分で料理ができる力」などで良好な傾向が見られているということですが、この10年間において、こども達の変化等で感じられることがありましたら、コメントいただけますでしょうか。

(児島委員)

私も「食事が楽しい」の数値が高いのがとてもよかったですと思いました。学校としては、食育の授業や活動というのがありますが、私が一番に思い浮かんだのは、給食時間に様々な行事食であるとか、世界の料理であるとか、栄養教諭がその都度放送を入れていることも「給食が楽しい、食事が楽しい」に繋がっていると思います。

(梅木会長)

学校の先生方の様々な取り組み、給食を通じた取り組みが、子ども達の楽しいという気持ちが強まっていることと関係していると感じます。そこで福津市らしさという点も今後は展開出来たらと思っています。私も食べることが楽しいと回答が増えたことは嬉しく良かったと安心したところでございます。

また、料理を自分で用意ができる力を見ていますが、料理コンテストなども福津市では開催をしておりますし、また学校の指導の中でも、自立力、自炊力が上がるような取組も行われているのではないかと思います。

それから生産者との交流やイベントに関しては、市民全体 42.4%で、参加意向は高いけれども、それでも参加したことがある人は 13.1%で、まだまだ取組めることがあるのではないかと結果を見ていたところです。

調査結果につきましては今後、次の議題の計画とも関連いたしますので、その中で、また振り返りながらご意見をいただければと思います。

続きまして、議事 2 の福津市食育推進計画について、まず、第 2 次食育推進計画の評価及び課題整理について事務局よりお願いします。

(事務局丸山)

資料 2 をご覧ください。

こちらは第 2 次福津市食育推進計画の指標になります。左から指標、平成 19 年、平成 27 年、令和 2 年、令和 7 年のアンケート結果を経年で記載しています。令和 7 年の結果で、オレンジ色は令和 2 年度のアンケート結果より良くなっている箇所、ブルーは悪くなっている箇所、グレーは質問しなかった箇所になります。目標値を黄色で記載しています。1 番右に変更点を記載しています。その中で、幾つか気になる箇所を抜粋します。

【指標 4】【指標 5】「野菜摂取を心がけている若い世代の割合」と「主食・主菜・副菜を組合せた食事を心がけている若い世代の割合」は、令和 2 年度と比較して低い結果でした。この項目は国も同様に低く、また、若い世代に限らず中高年も低い結果になっている箇所です。生活習慣病へのリスクが心配されるため、今後どのようにアプローチしていくかが課題になります。

【指標 6】【指標 7】「自分だけで料理をすることができる子どもの割合」と「朝食を食べる子どもの割合」は、小・中学生ともに改善が見られていて、目標値にも達成しています。先ほど、児島校長から発言があったように、学校で食育に力を入れている結果だと思われます。

なお、この結果は、小・中学生は、それぞれ学校別にも集計しています。皆さんに配布はしていませんが、学校別で見ると「自分だけで料理をすることができる子どもの割合」は、上西郷小が93.8%で一番高かったです。上西郷小は、夏休みの宿題として、1年生はおにぎり、2～6年生はカレーライスを自分で作ることを取り組んでいるので、良い結果に繋がっているのかと思いました。学校の先生の理解や協力で子ども達は伸びると感じているところです。

【指標8】「朝食を食べる若い世代の割合」は、男性18歳から29歳で改善している様に結果は出ていますが、回答者が家族と暮らしている方が多かったため、たまたま良い結果が出た可能性があります。こちらは若い世代だけではなく中高年の結果も低くなってきているため、今後は若い世代のみならず全世代を見ていったほうがよい項目かと思われます。

【指標16】「伝統料理や郷土料理を知っている市民及び子どもの割合」は増加傾向で、小中学生で目標値を達成しました。学校給食やお便り等の食育活動の結果だと思えます。

【指標17】「食に関する作法や望ましい食生活に関心のある市民の割合」は目標値を達成しています。

指標に関しては、時代の変化もあり、見直しが必要になっている箇所もあります。また、目標値との結果がかなりかけ離れている数値もありますので、見直しが必要になってきます。今後、国の方針も出てきますので、それを参考に、次回の会議で皆様のご意見を伺い、次の第3期計画の指標等を考えていきたいと思えます。

なお、本日配付資料の資料4に、国の動きが掲載してある内容の記載があります。これは、国が昨年12月時点での食育の課題や、今後必要なことを要約したものになっています参考に読んでいただけたらと思えます。

(梅木会長)

こちらは第2次食育推進計画指標の項目で、指標は全世代だけではなく若い世代、小・中学生だけに聞いているところもあり、様々な指標の立て方があります。全体を必ずしも見通している訳ではないですが、指標をつくるに当たっては、当時、特に重要であるとか、問題であるというところを注するために、高齢者であったり、若い世代であったりを指標として見えています。色分けのオレンジとブルーは、前回の令和2年度のコロナ禍からの経過推移であるということのご説明でした。

全国の結果との比較もお話していただいたように、計画を具体的に策定する際には、市の結果と全国の動向と、記事もいただいておりますので、組合せて考えていく必要があると感じているところです。指標の計画の進捗状況について、ご意見がある方がいらっしゃったらお願いいたします。

(林委員)

一般資料の11ページの性別の若い世代の「朝食を毎日食べますか」というところは、前回令和2年度から男性が減り、女性が増えています。5年前はコロナ禍ありながら、それから5年経過して今は食生活も安定しているのに、男性女性ともに結婚して子どもを産み育てていかない世代だから、私は若い世代にもしっかり朝食を食べて健康な赤ちゃんが生まれるような身体でいて欲しいのに、なぜ、女性は上がっているのに男性は下がっているのでしょうか。朝食を食べない理由が「時間がないから」とありますが、5年前も今も変わらないのではないかと不思議に思いました。もし分かれば教えてください。

(梅木会長)

そうですね、非常に結果の解釈が難しくなる場所として、回答者の人数がかなり少ないところにあります。例えば、資料でいうと12ページ以降は、性別と年齢階級別にグラフを作成していますが、令和2年度までも、とても多いわけではないですが、それぞれ大体半数の結果というところと、これに、そのパーセンテージでいくと、1人が持っているパーセントが大きいものですから、結果を見るとときには、性・年齢別の結果で見るところは解釈が絶対的に見るのは難しいところかと思えます。

理由については、アンケートの調査方法の限界ではあると思いますが、元は他の調査や経年的に比較しているのだから、選択肢を変えないままです。例えば時代とともに、「食べない」理由が変わってきているけれども、そこが、具体的には拾えていない可能性もあります。

もし、若い世代の食生活についてということで、掘り下げて行うのであれば、これも、抽出に問題・限界はあるかと思えますが、フォーカスグループインタビューなどを開催して、市民の生の声を聞くというような機会を設けるのも一つの手ではないかと思えます。

計画を策定する場面では、そういう取組もいいかもしれないですが、食育活動で意見をお互いに言い合うような企画をして、その結果を公表することでも同じような世代、性別、暮らしの方がどう考えているかということも興味を持っていただくチャンスになるので、アンケートの限界だと感じる場所もありますが、今後、様々な取組の中で選択肢を見直すなり、ここではあまりなかった時代背景とか特徴的な意見をお聞きしていくところも必要ではないかと思えます。しかし、本計画が市民全体の計画なので、なかなか全体をカバーするのは難しいところもあるかと思えます。

ただ林委員がおっしゃったように、若い世代の次世代に命をつないでいくということと食生活については、プレコンセプションケアの取組を厚生労働省も重点課題で取り組んでいますので、そういったことも今後、食育と絡めて活動が展開していくような10年でも良いのではないかと思えます。

(事務局丸山)

朝食摂取に関して、令和2年度に若い世代男性で結果が良かったのは、コロナ禍に家で仕事をする人が増えたので、その影響で令和2年度がたまたま

良い結果だったのかと思います。その前からの経年で見ると、だんだん下がってきている傾向かと考えています。

(梅木会長)

朝食の問題がありましたが、地域住民の方に料理教室等されている城野副委員長から何かご意見はないでしょうか。

(城野副会長)

食進会で料理教室を行っていますけど、定員は約 30 人です。料理教室の参加希望者が本当に多くてびっくりしています。1 回受けても、また 2 回目も受けたという方もいらっしゃいますので、次は新しい方を優先したりして、担当の市の栄養士さんも苦勞しています。ですから住民の方は関心があると思っています。

(梅木会長)

非常に重要なご指摘かと思いました。やはり福津市の人口の増加に伴い食育を展開する側の人的なマンパワーの課題について発言していただきました。リピーターの方もいらっしゃるということで、食生活は習慣があつてこそそのことなので、1 回のイベントに参加して、意識が高く実行まで結びつけられたら良いですが、なかなかそれも難しいので繰り返すことによって定着するということですが、現状は難しいということでしたので、だとしたら、違う方法や何か工夫を実践のところでも検討していく必要はあると思いました。

この指標については、食育を普及啓発していく側の視点が、計画に具体的に挙がらなくても大事なことだと思いますので、今後、計画では検討が必要だと思いますし、その視点も重要だと思いました。

続いて、次期計画の取組の方向性について事務局より説明をお願いします

(事務局丸山)

資料 3 をご覧ください。第 3 期の福津市食育推進計画に向けての案です。左から、目指す姿、基本目標は、第 1 次計画の平成 19 年度から変更はありません。こちらは、福津市食育推進条例に記載されているところで、目指す姿は「福津のめぐみ笑顔がつながるみんなの食卓」、基本目標は、1.元気な地域をつくる 2.健康な暮らしを実感する 3.豊かな心を育む 4.安全安心な環境をつくる 5.連携協働で食育を進める

その右隣から、第 1 次基本方針、その右側に、第 2 次基本方針を掲載しています。赤い文字で書かれたところが、1 次から 2 次で変更した箇所です。

黄色のところは第 3 次基本方針の案です。上から 3 番目の若い世代ですが、国も含めて全ての世代に意識が低下している箇所がありますので、全ての世代に戻すのはどうかというところです。

下から3番目の「地域の自然環境をみんなで守る」は、1次2次でもありましたが、具体的な取り組みが、食品ロスのことになっています。食品ロスに関する取り組みは、アンケート結果より実行できている箇所であり、内容を「食に関する正しい知識を身につける」の中に組み込んで、削除してもよいのではないかと案を出せていただきました。

(梅木会長)

資料3に基づいて、今後の方針についてご説明をいただきました。最後のところで説明していただいた、食品ロスはアンケート結果でも良好な推移であるとのこと、正しい知識というところに加えるというお話しでしたが、例えば今回アンケートで、課題として指摘されていた、フードバンク、こども食堂ですとか災害に備えるようなことも、ここに入ってくる取組になるかと思いました。

基本方針をが、具体的に挙げると今みたいに、これもあれも問題だということが見えてきますけれども、それをこの方針の中にうまく当てはめて、第3次の指標を具体的に今後検討するような流れになろうかと思えます。

初めにご説明があったように条例で基本目標が定められているということで、これは変えられない大事な骨子ということですので、方針に関しては、目標に沿わせて、今まで文言が整理されてきているところではあります。この黄色の部分の基本方針は、いつの段階で確定になったらよろしいですか。

(事務局安部)

基本目標を大きな柱として承認していただきましたら、これに沿って細かい内容を肉付けしていくというようなスケジュールで考えております。最終的には、秋頃を目途に、計画書としていきたいと考えております。

(梅木会長)

大きなこのスローガンの言葉にまとめられているので、例えば言葉尻を変更、表現を少し変更するのが秋ぐらいまでなら可能ということでしょうか。

(事務局安部)

中身と整合性がとれないことであれば、文言の変更はあり得るのかなと考えています。

(梅木会長)

黄色のところをご覧いただくと、先ほど「安全安心な環境づくり」の中の「食に関する正しい知識を身につける」に色々入ってくる可能性が出ておりますけれども、若い世代のところは、元々の第1次の全ての世帯に戻るということであって、アンケートを見ていくと、以前は朝ごはんの摂取は若い世代の問題であると思っていた一方で、他の世代も増えてきているところも見えてきていますので、ここは若い世代に限定して注目するというのではなく、大枠として全ての世代にしておいて、取り組み方を、それぞれのターゲ

ットに合わせて、実践の部分で展開していくという方法にしても良いのではないかと思いましたが、皆さんいかがでしょうか。

(田島委員)

第3次の計画に向け項目が挙がっていますが、今日配付されていた総括という資料の107ページの下から5行目ぐらいですか。

国の第5次食育推進計画が策定中だと思いますが、その中で、ここに重点施策が書いてありますが、福津市の計画も、この国の重点施策をある程度加味した形で作られるのでしょうか。

資料3の目指す姿は「笑顔がつながるみんなの食卓」というキャッチフレーズがありますが、これもこのまま3次でも使うのでしょうか、それとも変更するのでしょうか。

最後に、国の食育推進計画は期間が5年ですよね。福津市は10年、この目まぐるしく経済の状況とかが変わる中で、10年間というのはならないかなという気はしております。途中で当然見直しはされるのでしょうか、国の計画も5年でということですので、その辺もちょっと考えても良いかと思えます。

(事務局安部)

目指す姿につきましては、この形のままにしたいと考えております。今後、国の計画が出て参りますので、その内容も検討し、福津に合う形で組み込んでいくということを考えています。

計画につきましては、第2次計画をまず踏襲するような形で、そこをベースにしまして変更すべきところがどこか、時代に合っていないところがどこかというところで変更を考えております。計画期間につきましては、田島委員がおっしゃるように10年という形は確かに今の時代の変化を考えますと長い感じもいたします。

今、市役所の内部でも、いろんな計画があるため、計画の統合という話も出ています。計画期間の在り方とか、統合をどうするかとかも含めましてこの会議の中でご意見をいただけたらと考えております。

(梅木会長)

食とか健康とか環境とかは、それぞれで連携しながら取り組む課題だと思いますので、そうなるそれぞれの計画に同じような課題があがっていくようになってきますので、統合の方向性も検討中ということでございました。今後の10年の間には、そういった変更もあるかもしれないということですね。

(中島委員)

先ほどの「安心安全な環境をつくる」の第3次の「地域の自然環境をみんなを守る」という項目を削除する方向で、今お聞きしましたけれど、知人の農家さんの話をさせていただきます。

地元の勝浦の農家の方で、気候変動もあり、作物も作りにくい状況があり、結構地域の農家さんが農業をやめられる方も非常に多いそうです。その

方は、そういった方から田畑を逆に受入れて自分のところでお米や麦とか規模を増やしてしていらっしゃるのですが、実際その方から聞いた時に、ただ作っているだけではなくて、そのかた達が作っていることによって景観が保たれているということでした。

私たちは、景観の部分こそまで感じていないのではないかと思います。そういった意味でも、地域の農産物を私達が食べて、自分の体になっているだけではなくて、地域の景観も守られているというところを含めて、ぜひこの計画にも取り入れていただきたいなと思うので、この文言を何かいい形に変えていただけるとありがたいと思います。ただ食べるだけじゃなく、環境とか自然にも繋がっているという部分を、多くの人にも感じていただきたいのでお伝えさせていただきました。

(児島委員)

同じところですが。先程の事務局の説明では「地域の自然環境をみんなで守る」というところに、食品ロスの内容も入っていて「食に関する正しい知識を身につける」の中に食品ロスの活動も入れていくと受け止めたのですが、「正しい知識を身につける」という方針に「食品ロス」を組み込むということに何かびったりきません。

学校現場でいくと「食への感謝の気持ちを育てる」にその取組は入ったほうがじっくりくると思いました。

ただ、私も「地域の自然環境をみんなで守る」は、残したほうがよいという印象を持ちました。というのも、福井市長は、ワンヘルスを市でやっているということ、来年度の福津市の教育ドリームプランにもワンヘルス、人の健康、動物の健康、自然環境を一体的に守っていく、という考え方を進めていくというのが教育のプランとしてあります。その兼ね合いを考えると、この「自然環境をみんなで守る」が、あえてここでなくなるのが何かこう市の方針と逆行しているような感じはしました。

(事務局丸山)

この内容が第2次福津市食育推進計画オレンジの冊子の29ページに記載があり、具体的な取組の内容が食品ロスに関することのみでしたので、ご意見いただいた様な内容も入れていくとよいと思いました。

(林委員)

資料5の第3次基本方針に提案がありましたけど、4番の「安心安全な環境をつくる」ところで気になることがあり、添加物の健康被害に関して危惧しています。だから添加物の健康被害に関して、市の栄養士や保健師に講座を開いてもらいたいと思っていますが、イベントに取り入れてもらえないのでしょうか。

(事務局丸山)

市の栄養士、保健師の役割は、国の機関が啓発推進する内容を市民の皆さんへお伝えることだと考えていますので、今の段階では添加物に特化した講座を開催する予定はありません。

(事務局安部)

計画の中では大きな方向性を決めるということになっていきますので、そういったご意見があるということも念頭に置きたいと思います。

(梅木会長)

話題が少し戻りますけど、先ほどワンヘルスの取組を推進しているということと関係して、食品ロスが入っていった「地域の自然環境をみんなで守る」ということで、基本目標でも環境というキーワードが出てきているということから環境的な文言を残したほうがいいのではないかとということでお話があります。

学校教育の現場では、食品ロスは感謝のところで紐づけられているということで、もちろん入ってくる内容かと思うのですが、環境を感じてとか、感謝だけでなく、具体的な行動や環境と食の繋がりを知ることが、正しい知識でも解釈はできるとは思うのですが、ここをぜひ残していただきたいというお話が各委員さんからご意見として出ています。

(事務局安部)

ここについては、統合した経緯といたしまして、20ページの計画の中に生ごみ処理やコンポストとをいう表記がございまして、確かにこの計画を最初につくった当時がコンポストや生ごみ処理機械の利用を進めていた時期でした。そこは、現状と合わなくなってきており、プロジェクト会議の中で検討した結果、今回統合した形としました。

皆様からの新しい視点もいただきましたので、もう一度プロジェクト会議で再検討させていただきたいと思います。

(梅木会長)

お願いします。他にはご意見いかがでしょうか。

先ほどご説明もありましたように、具体的な実践を制限するための計画ではなく、あくまで基本方針は広くカバーできるような文言で整理されていて、この中で時代やポイントに合わせて具体的な計画は落とし込んでいくということです。

今後、色々な課題が出てくると思いますので、それを除外するわけではなく、上手くこの中で展開ができるようになっていきたいということでしたが、環境の視点は再検討されることも含め、全体的な抜け落ちがあっては困りますので、ぜひここは抜けているのではないかとすることがあれば、今ご意見をいただいておりますけれども、何かありますでしょうか。

また少し戻りますが、実践者の人材確保で、自分がいろいろな知識を教示して、実践して行動していただくだけでなく、笑顔つながるとある様に、自分が伝える側になっていくことで、より実効度が高まったり、お互いに勉強し合って、新たな視点が備わってくるということも非常に大切だと思いますし、食生活というのがそのような、繋がりで成り立っていったり、食事をする場面も繋がりを感じて食事をしたり、いろいろな方がいらっしゃるおかげで食生活が営めるということですので、そういった受け手の視点だけでない計

画を、この次の取組のところには、そういうことも盛り込めたらいいと思います。

秋ぐらいまでは僅かな変更は可能ということ、環境面のところは、もう一度持ち帰ってご検討いただけるということです。

この方針の大枠はこれでお認めいただいたということで本日はよろしいでしょうか。

それでは、議題として準備されていたことは以上となりますけれども、事務局からその他、何かございますか。

(事務局丸山)

他にも皆様に配布している資料がありますので、少し説明させてください。資料5は、第2次福津市食育推進計画に沿った市での取り組みの進捗状況です。新しく入ったところが、資料5の1ページの下から4番目、こども課のところですよ。令和7年度の取組として、物価高対応子育て応援手当の支給を、0歳から高校生までの子供を養育する保護者に対して、子ども1人当たり2万円の物価高対応子育て応援手当を支給しております。また、食料品物価高騰支援給付金として市民1人当たり、福津市は5,000円を支給しております。なお65歳以上には2,000円を加算して支給しております。

先ほどアンケートでは、情報を知らなくてイベントに参加できなかったとの回答が多くあったとありましたが、SNS等を通して、以前よりは随分、情報を発信しているところもあり、それにより食進会の料理教室の案内等をしていて、応募者が増加していると思いますので、今後、アンケートのとり方も、食育のイベントのイメージが湧いてない可能性もありますので、そういうところもつけ加えていきたいと思っております。それでも情報が届いていないところがあるということがありましたら、また今後どのようにしていいか、ご意見いただければと思っております。

資料6-1は、食のイベントカレンダーをまとめた表になっております。

資料6-2は、学校、保育園、地域の取組で、令和8年度はまだ日程が決まっていなくて多いので、令和7年度の報告になっております。

資料7、令和7年度の各課食育関連の広報掲載内容をまとめています。

(梅木会長)

ご質問はないでしょうかそれでは、本日の議題は以上で終了しました。では事務局へお返しします。

(事務局安部)

ありがとうございます。これで全て終了いたしました。令和8年度の会議の開催は3回から4回の開催を考えております。この中で計画の中身のほうをご検討いただくような形にしていきます。

次回の会議の日程、今の現在のところ5月を予定しております。また、具体的な取組案ですとか指針等に関しまして今後皆様と意見交換していきたい

と考えております。本日の会議録につきましては、後日、本日は皆様ありがとうございました。